

2016年の正会員の研究業績

青山 和司

●著書

『現代金融論』[新版] (共著) 有斐閣、2016年12月。

浅野 信博

●論文

「監査役会の独立性にたいする決定要因分析」『経営研究』第67巻第3号、25-43頁、2016年11月。

「日本型回転ドアの慣行は財務報告の品質を高めるか」『会計』第190巻第5号、58-68頁、2016年11月。

「監査役会開催頻度の決定要因を探る」『経営研究』第67巻第2号、59-75頁、2016年8月。

「財務報告の品質は社外監査役の出席率に左右されるのか」『経営研究』第66巻第4号、225-234頁、2016年2月。

●ワーキングペーパー

「開示情報の拡張と監査枠組みの多様化に関する研究」(松本祥尚氏・異島須賀子氏・小澤義昭氏・笠井直樹氏・首藤昭信氏・林隆敏氏・堀古秀徳氏・町田祥弘氏・高田知実氏との共著) 日本会計研究学会スタディグループ中間報告, 関西大学会計専門職大学院 Working Paper Series No. 15, 2016年9月。

●学会発表

「監査役会の独立性および専門性にたいする影響要因の探索」日本経営分析学会第32回秋季大会、国士舘大学世田谷キャンパス、東京都、2016年10月22日。

「開示情報の拡張と監査枠組みの多様化に関する研究(中間報告)」(松本祥尚氏・異島須賀子氏・小澤義昭氏・笠井直樹氏・首藤昭信氏・林隆敏氏・堀古秀徳氏・町田祥弘氏・高田知実氏との共同報告) 日本会計研究学会第75回大会、静岡県コンベンションアーツセンター、静岡市、2016年9月12日。

石井 真一

●著書

「新たな協業の形—境界を越えていく自動車開発—」(加護野忠男・山田幸三編『日本のビジ

ネスシステム』第3章)、57-77頁、有斐閣、2016年11月。(単著)

●学会発表

“Global linking beyond lean: How did Toyota establish its offshore network”, DREAMT seminar, University of Pavia, Pavia, Italy. (2016年1月28日、単独)

“Entry mode of Japanese automotive component suppliers in foreign subsidiaries: Experimental analysis of bundling model,” Poster session of 42nd Annual Conference of European International Business Academy, Vienna University of Economics and Business, Vienna, Austria, 2-4 December 2016. (2016年12月3日、Jiang, T.氏と共同)。

“Localization of top management at Japanese automobile assemblers’ subsidiaries in North America,” Poster session of 42nd Annual Conference of European International Business Academy, Vienna University of Economics and Business, Vienna, Austria, 2-4 December 2016. (2016年12月3日、Zhao, Y.氏と共同)。

●その他

「(05)【司会者】サブテーマ3:「現代企業とグローバリゼーション」『経営学論集第86集』(<http://www.jaba.jp/category/select/cid/799/pid/10626>)。(単著)

「(27) 米国におけるトヨタの製品開発」『経営学論集第86集』、(27) 1-2頁、(<http://www.jaba.jp/category/select/cid/802/page/2/mode/1/language/ja>)。(単著)

石川 博行

●著書

『企業価値向上のための財務会計リテラシー』西川郁生編著・秋葉賢一・長谷川茂男・石川博行・柳良平著(第5章「日本企業の企業価値に係る数々の証拠」、pp. 129-152を担当)、日本経済新聞出版社、2016年8月、1-192頁。

『株式価値評価モデル』(2016年度証券アナリスト第1次レベル通信教育講座テキスト、財務分析第8回)日本証券アナリスト協会、2016年11月、1-35頁。

●論文

「価値創造企業のROEと株主資本コスト」『年金レポート』第117号、2016年1月、35-45頁。

太田 雅晴

●論文

「グローバル経営を牽引する情報システム検討のフレームワークの提言」、『中央大学商学研究』、57巻5・6号、2016年3月、33頁～52頁

“Framework for discussing Information System Developments to lead Global Management Excellences,” Proceedings of 5th P&OM World Conference, Havana, Cuba, September 6-10, 2016, Sep. 2016, on USB-memory

●学術講演

“The ability of Japanese Manufacturing Industry in IoT era,” 6th International Symposium on Operations Management and Strategy 2016 (Keynote speech), June 10-12, 2016, Kobe University, Rokkodai Campus, Japan, June 2016

“What we have to think in the era of GSC,” Special Lecture at University of Gadjah Mada, Jog Jakarta, Indonesia, Nov. 2016

●その他

「5th World Conference on Production and Operations Management 2016」参加報告、『Nextcom』、28号、株式会社KDDI総合研究所、2016年12月、40頁～41頁

川村 尚也

●論文

「科学技術組織における経営倫理の研究アプローチー米国企業・経営倫理研究とクリティカルマネジメント研究の視点からー」、川村尚也、『科学史研究』第55巻No. 278、2016年7月、172-177頁、(中瀬哲史・兵藤友博・中村征樹・川村尚也「シンポジウム 科学者と経営者の倫理と社会的責任」部分執筆)。

“Experimenting arts-mediated critical management learning for health/social care organizations - an analysis from a Vygotskian perspective of double stimulation”, Conference paper presented at the 32nd European Group for Organization Studies Colloquium Sub-theme 9: (SWG) Transitional Spaces and Practices in Organizations: Questioning the Powers of Art and Design, July, 2016, 32 pages on EGOS digital archives.

“Evaluating the effects of arts-mediated workshops on the critical management learning for health/social care professionals and managers in Japan”, Conference paper presented at the Annual Conference of the European Academy of Management,

(EURAM 2016) Category: 11 PUBLIC AND NON-PROFIT MANAGEMENT >> 11_01 MANAGEMENT RESEARCH IN HEALTHCARE ORGANIZATIONS, June, 2016, 36 pages in the digital proceedings and EURAM digital archives.

●学会発表

「学会コラボ企画第2部 倫理的にマインドフルな組織づくりのリーダーシップ」(Anne Passilla との共同報告)、第54回日本医療・病院管理学会学術総会 特別講演及びワークショップ(協賛:日本生命倫理学会、後援:経営哲学学会、日本情報経営学会「医療・介護・福祉サービス創造のための地域医療連携情報基盤に関する研究」研究プロジェクト)、東京医科歯科大学(東京都文京区)、2016年9月18日。

「学会コラボ企画第1部 倫理的にマインドフルな病院づくり 病院倫理制度の創造的破壊に向けた倫理学と経営学からの問題提起」(服部俊子、金城隆展、尾藤誠司、大北全俊、濱井和子、高橋正泰との共同報告)、第54回日本医療・病院管理学会学術総会 パネルディスカッション(協賛:日本生命倫理学会、後援:経営哲学学会、日本情報経営学会「医療・介護・福祉サービス創造のための地域医療連携情報基盤に関する研究」研究プロジェクト)、東京医科歯科大学(東京都文京区)、2016年9月18日。

「自組織アクション・リサーチ等を用いた「協働・連携」イノベーション経営人材の育成」、第54回日本医療・病院管理学会学術総会パネルディスカッション(招聘報告)、東京医科歯科大学(東京都文京区)、2016年9月17日。

「ワークショップ 経営教育の新たな方法を考える」(福原康司・高橋正泰・中原淳・高木光太郎・館野泰一との共同報告)、日本経営学会第90回大会、専修大学(東京都千代田区)、2016年9月2日。

“Experimenting arts-mediated critical management learning for health/social care organizations - an analysis from a Vygotskian perspective of double stimulation”, The 32nd European Group for Organization Studies Colloquium Sub-theme 9: (SWG) Transitional Spaces and Practices in Organizations: Questioning the Powers of Art and Design, University of Naples Federico II, Naples, Italy, July 8th, 2016.

“Democratizing Learning and Development through Art-Based Mediation and Playful Modeling” (Workshop co-convened with Klaus-Peter Schulz, Silke Geithner, and Kamel Mnisri), The Annual Conference of the European Academy of Management, (EURAM 2016) Development Working Group (DWG) 06 sponsored by the SIG Innovation, Universite Paris?Est Creteil, Creteil, France, June 2nd, 2016.

“Evaluating the effects of arts-mediated workshops on the critical management learning for health/social care professionals and managers in Japan”, The Annual Con-

ference of the European Academy of Management, (EURAM 2016) Category: 11 PUBLIC AND NON-PROFIT MANAGEMENT >> 11_01 MANAGEMENT RESEARCH IN HEALTHCARE ORGANIZATIONS, Universite Paris?Est Creteil, Creteil, France, June 4th, 2016.

●その他

講演「現代の教養としての経営学 より良い社会をつくるために」、大阪市立大学文化交流センター講座<<温故知新>>、大阪市立大学文化交流センター（大阪市）、2016年12月14日。

講演「看護組織管理論（組織論、組織文化）」、日本看護協会認定看護管理者制度教育課程セカンドレベル、大阪府看護協会桃谷センター（大阪市）、2016年6月26日（組織論）、7月1日（組織文化）、9月30日（組織論）、10月8日（組織文化）。

講演「知識創造のリーダーシップ コネクション、コミュニケーション、コラボレーション」、社会福祉法人大阪府社会福祉協議会管理職研修、大阪社会福祉指導センター（大阪市）、2016年2月5日。

小林 哲

●著書

『地域ブランディングの論理』有斐閣、2016年12月。

●その他

「郷土食の継承と革新—大阪うどん vs. 讃岐うどん」『2015年度 和食文化の保護・継承に貢献する研究支援事業報告書』公益財団法人味の素食の文化センター、2016年3月、79頁—92頁。

鈴木洋太郎

●論文

「日本企業のアジア立地展開とサプライチェーン」『経営研究』第66巻第4号、2016年2月、135—152頁。

「アジアの自動車産業」アジア太平洋研究所編『アジア太平洋と関西—関西経済白書2016—』丸善プラネット、2016年10月、61—66頁。

高田 輝子

●ワーキングペーパー

“Robust Forecasting of Long-term Smoothed Trend Reversals in Stock Market,”

(Coauthor: Takahiro Kitajima) OCU-GSB Working Paper, No. 201608, Dec.2016.

●学会発表

「ノンパラメトリック確率密度推計によるNYSE Open book 売手／買手別指値注文パターンの非対称性分析」(北島孝博との共著、発表者：北島) 大阪大学中之島ワークショップ、大阪大学中之島センター、大阪、2016年12月2日。

高橋 信弘

●論文

「中小ソフトウェア企業のビジネス活性化に向けた課題」『商工金融』第66巻2号、2016年2月、4-21頁。

●学会発表

“Policy Analysis On A Small Open Economy Model” (joint), 2016 International Academic Business Conference San Francisco, August 1, 2016, the Sheraton Fisherman’s Wharf Hotel, San Francisco, California, USA.

“Innovation Of Japanese Small And Mid-Sized Manufacturing Firms” (joint), 2016 International Academic Business Conference San Francisco, August 2, 2016, the Sheraton Fisherman’s Wharf Hotel, San Francisco, California, USA.

●その他

「テキストを語る Textbook Review 高橋信弘(著)『国際経済学入門ーグローバル化と日本経済ー改訂第2版』『大学教育』(大阪市立大学)第13巻第2号、2016年4月、pp. 69-71。

田口 直樹

●著書

田口直樹編著『アスベスト公害の技術論』ミネルヴァ書房 2016年11月。

●論文

田口直樹「日本における近代金型産業の萌芽と発展」(馬場敏幸編『金型産業の技術形成と発展の諸様相』日本評論社、2016年4月、37-59頁。)

●学会発表

田口直樹「経済学、経営学と技術史研究」日本科学史学会全国大会、工学院大学、東京都、2016年5月28日。

●書評

田口直樹「佐伯靖雄著『自動車の電動化・電子化とサプライヤー・システム：製品開発視点からの企業間関係分析』晃洋書房、2012年」『工業経営研究』第30巻第2号、2016年9月、33-36頁。

田村 晃二

●論文

「競争マイオピアとは何か？」(単著)『経営研究』第66巻第4号、2016年2月、207-224頁。

翟 林瑜

●論文

「日本の株式市場におけるバリュー投資の有効性」『経営研究』第67巻第1号、2016年5月、37-52頁。

富澤 修身

●論文

「戦後大阪の中小繊維アパレル企業変遷史」大阪市立大学『経営研究』第67巻第1号、2016年5月、1-36頁。

中瀬 哲史

●著書

『エッセンシャル経営史』中央経済社、2016年10月。

●論文

「東京電力の経営史と原子力発電所事故」大阪市立大学経営学会『経営研究』第66巻第4号、2016年2月、153-184頁。

「日本の電子部品メーカーの歴史的発展の分析と今後の発展方向：「京都企業」モデルからの脱却(上)」大阪市立大学経営学会『経営研究』第67巻第2号、2016年8月、35-57頁。

「日本のエレクトロニクス産業の発展方向：「京都企業」モデルからの脱却(下)」大阪市立

大学経営学会『経営研究』第67巻第3号、2016年11月、1-24頁。

●学会発表

「地域再生と環境経営を織り込んだ次代の生産システム試論」工業経営研究学会全国大会、福岡市（福岡大学）、2016年9月10日。

ト 志強

●論文

「中国企業におけるアメーバ経営の展開」『経営研究』、第66巻第4号、2016年2月、197-206頁。

●招待講演

「アメーバ経営について」世界トップ企業経営実務講座、浙江大学上海学友会、中国上海、2016年8月27日。

「京セラのアメーバ経営モデル」企業経営管理研究会、山東銀座旅遊集団、中国山東省済南、2016年9月2日。

本多 哲夫

●論文

「地域社会づくりと自治体中小企業政策—大阪の事例から—」日本中小企業学会編『地域社会に果たす中小企業の役割—課題と展望—（日本中小企業学会論集35）』同友館、2016年7月、16-28頁。

「自治体における中小企業政策と政策評価—大阪市のビジネスマッチング支援のケーススタディー—」大阪市立大学経営学会『経営研究』第67巻第2号、2016年8月、1-18頁。

宮川 壽夫

●著書

『企業価値の神秘～コーポレートファイナンス理論の思考回路』（単共）中央経済社、2016年11月。

●論文

「株主価値と一株当たり利益の誤解」（単著）『ジャパニーズインベスター』2017春号 No. 92 2017年1月、52-53頁。

●学会発表

「株主優待が株価にもたらす独自効果」(野瀬義明、伊藤彰敏との共著) 日本経営財務研究学会全国大会、武蔵大学、東京、2016年8月9日。

向山 敦夫

●シンポジウム発表

「大学の社会的責任と監査の向かう方向」大学監査協会監査課題研究会議、同志社大学寒梅館、2016年6月2日。

●その他

「経営分析の多様性 ー解題ー」『年報経営分析研究』第32号、2016年2月、26-27頁

山田仁一郎

●著書

『地域創生イノベーション』(忽那憲治・山田幸三・松岡久美との共著) 中央経済社、2016年10月。

●論文

「企業家による事業の失敗に対する意味形成プロセスの解明ー省察的対話における語り直しとスキーマの更新に着目して」(伊藤智明・足代訓史・江島由裕との共著)『日本ベンチャー学会誌(ベンチャー・レビュー)』第27巻、2016年4月、15-29頁。

●学会発表

“Micro-foundation for Academic Entrepreneurship: Evidence from Japanese Ecosystem Building in Institutional Change,” *Management Theory and Practice Conference*, Kyoto University-National Taiwan University, 2016年4月4日

“How does role conflict affect entrepreneurial exit types? Case studies of life science entrepreneurs,” (Toru Yoshikawa との共同報告) *Annual Conference of Association of Asian Studies Conference*, 同志社大学、2016年6月24日

“Strategic Interaction During M&A Negotiation Process: A Case Study Between Japanese and Taiwanese Firms of Solder Resist Ink Industry,” (Lichao Cui との共同報告)、*Association of Japanese Business Studies 29th Annual Meeting*, New Orleans, Louisiana, United States, 2016年6月25日

“Beyond The (Traditional) Automobile PART 2: New Capabilities and New Paradigm?”

- (Shigeru Asaba, Masahiro Okada, Tsutomu Nakano, , Marvin Lieberman, Takahiro Fujimoto, Daniel Arturo Heller, John Paul MacDuffie, Sung Joo Park, Xudong Gao との共同報告) *Academy of Management Annual Meeting*, 2016年8月5日
- 「大学発ベンチャーの組織化と出口戦略」日本経営学会・全国大会学会受賞者セッション (専修大学) 2016年9月2日
- 「大学発ベンチャーの出口戦略」日本経営学会・全国大会自由論題セッション (専修大学) 2016年9月3日
- “Antecedents of Outside Directors’ Role Identity during Institutional Change,” (Toru Yoshikawa との共同報告) *Strategic Management Society Conference*, 2016 September 20th, Berlin, Germany, 2016年9月20日
- 「書評セッション・大学発ベンチャーの組織化と出口戦略」組織学会年次大会、上智大学、2016年10月4日
- 「トップマネジメント・チームの構築過程—中小企業の事業転換とIPOの事例研究」(林侑輝との共著) 日本ベンチャー学会全国大会、東洋大学白山キャンパス、2016年12月4日。

除本 理史

●著書

『公害から福島を考える — 地域の再生をめざして』岩波書店、2016年4月、xiv+203頁。

●論文

「原発事故賠償と福島復興政策の5年間を振り返る — 避難者に対する住まいの保障に着目して」『経営研究』第66巻第4号、2016年2月、185-195頁。

「福島復興政策の5年間をどうみるか — 帰還政策から避難終了政策へ」『教育』第842号、2016年3月、5-15頁。

「福島原発事故賠償の5年間をどうみるか」『復興』第7巻第3号、2016年3月、42-47頁。

「福島原発事故の賠償と復興をめぐるせめぎあい」『住民と自治』第635号、2016年3月、11-15頁。

「原発事故による『ふるさとの喪失』—『社会的出費』概念による被害評価の試み」植田和弘編『被害・費用の包括的把握』(大震災に学ぶ社会科学 第5巻) 東洋経済新報社、2016年3月、51-79頁。

「帰還政策から避難終了政策へ — 福島復興政策の5年間を振り返る」原子力資料情報室編『検証 福島第一原発事故』七つ森書館、2016年4月、170-181頁。

「福島原発事故による商工業等の営業損害の継続性と広範性 — 賠償『終期』に関する一考察」『経営研究』第67巻第1号、2016年5月、53-65頁。

「損害賠償と情報——放射線被曝と賠償に関する論点」『災害情報』第14号、2016年7月、50-55頁。

「福島原発事故の被害地域における住民の帰還と『ふるさとの変質、変容』被害——川内村における伝統芸能継承の困難を事例として」(藤原遥・片岡直樹と共著)『環境と公害』第46巻第2号、2016年10月、60-66頁。(査読あり)

「事故賠償と拡大する東電救済策」『科学』第86巻第11号、2016年11月、1141-1143頁。

●ワーキングペーパー

「福島原発事故による営業損害の終期問題を考える」(渡辺淑彦・高木竜輔・三村茂太と共著) OCU-GSB Working Paper No. 201602、2016年3月6日。

「福島原発事故の被害地域における住民の帰還と『ふるさとの変質、変容』被害——川内村における伝統芸能継承の困難を事例として」(藤原遥・片岡直樹と共著) OCU-GSB Working Paper No. 201603、2016年3月20日。(第3回「原発と人権」全国研究・交流集会 in 福島 第1分科会、福島大学、福島市、2016年3月20日、で発表)

「原発事故賠償とリスクコミュニケーション論——『自主避難』の合理性をめぐる」 OCU-GSB Working Paper No. 201606、2016年6月12日。

●書評

書評「高橋若菜編著／田口卓臣・松井克浩共著『原発避難と創発的支援——活かされた中越の災害対応経験』本の泉社、2016年」『新潟日報』2016年7月17日付。

書評「日野行介『原発棄民——フクシマ5年後の真実』毎日新聞出版、2016年、吉田千重『ルポ 母子避難——消されゆく原発事故被害者』岩波新書、2016年」『環境と公害』第46巻第2号、2016年10月、69-70頁。

●学会発表、招待講演

「福島復興政策の問題点——『不均等な復興』という視点から」第3回「原発と人権」全国研究・交流集会 in 福島(第5分科会「政府の帰還政策を問う」)、福島大学、福島市、2016年3月20日。(招待講演)

「公害問題の教訓から学ぶ原発避難者救済の課題」関西学院大学災害復興制度研究所 2016年度第1回避難・疎開研究会(関西部会)、関西学院大学、西宮市、2016年4月16日。(招待講演)

「原発『自主避難』の合理性・相当性をめぐって」環境社会学会第53回大会、柳川総合保健福祉センター「水の郷」、柳川市、2016年6月12日。

「公害から福島の復興を考える」高崎経済大学経済学会 第1回学術講演会、高崎経済大学、

高崎市、2016年7月22日。(招待講演)

「原発事故による『ふるさとの喪失』と被害回復」日本科学者会議第21回総合学術研究集会、龍谷大学、京都市、2016年9月3日。

「原発事故被災地における賠償と地域再生の課題——川内村の事例から」日本環境会議(JEC)東日本多重災害復興再生政策検討委員会第30回全体会合(主催:JEC東日本多重災害復興再生政策検討委員会、東京大学復興デザイン研究体)、東京大学、文京区、2016年9月9日。

「『地域の価値』の再構築とコミュニティの役割」研究シンポジウム「都市・農村コミュニティの現代的再生を探る」(主催:金沢大学人間社会研究域附属地域政策研究センター)、北国会館、金沢市、2016年9月16日。(招待講演)

「福島原発事故の被害と政治経済学の課題——『ふるさとの喪失』被害と『地域の価値』に関する一考察」経済理論学会第64回大会、福島大学、福島市、2016年10月16日。

「原子力損害賠償と東電救済策」緊急シンポジウム「電力システム改革と原子力政策の動きをどうみるか」(主催:科学研究費基盤研究(A)「システム改革の下での地域分散型のエネルギーシステムへの移行戦略に関する政策研究」(研究代表者:大島堅一)・日本環境会議)、明治大学、千代田区、2016年11月6日。

「戦後日本の公害経験から福島の復興を考える」神戸大学都市安全研究センターオープンゼミナール、神戸市役所危機管理センター、神戸市、2016年11月19日。(招待講演)

「原発事故賠償からみる福島復興の課題」貧困研究会第9回研究大会、コラッセふくしま、福島市、2016年12月3日。(招待講演)

●その他

(書籍監修)

『未来のために学ぶ四大公害病』岩崎書店、2016年11月。

(新聞・雑誌等寄稿)

「原発避難者に対する賠償、支援策の現状と課題」『まなぶ』第713号、2016年7月、20-23頁。

「命の尊厳守る復興を」共同通信配信、『高知新聞』2016年3月3日付、『秋田さきがけ』2016年3月10日付、『西日本新聞』2016年3月12日付、『中國新聞』2016年3月16日付。

「福島の復興——公害研究から考える」『聖教新聞』2016年6月30日付。

「原発避難者の住宅問題と事故賠償」日本住宅会議編『深化する住宅の危機——住宅白書2014-2016』ドメス出版、2016年12月、245-248頁。

(インタビュー、座談会、TV・ラジオ出演)

「福島『避難終了政策』は何をもたらすか」(座談会。日野行介・吉田千亜・渡辺淑彦と共著)

『世界』第 878 号、2016 年 2 月、169-181 頁。

「東電主導の賠償 解決図れぬ」『朝日新聞』2016 年 2 月 20 日付朝刊。

「司法の場での争い増える」(震災 5 年 追跡福島第 1 原発)『日本経済新聞』2016 年 3 月 2 日付朝刊。

「いま原発避難者に求められる支援とは」(シリーズ・東日本大震災 5 年) NHK 視点・論点、2016 年 3 月 10 日放送。

特集「東日本大震災から 5 年 これからの課題は？」NHK ラジオ第 1「先読み！ 夕方ニュース」2016 年 3 月 11 日放送。

「水俣病、公式確認から 60 年 なぜ福島でも同じことが繰り返されるのか」『The Huffington Post』2016 年 5 月 1 日 (http://www.huffingtonpost.jp/2016/04/30/minamata-disease-sixty-years_n_9815362.html)。

「実態に即し対応を」(東京電力福島第一原発事故 賠償の底流 51)『福島民報』2016 年 6 月 21 日付。

「(核リポート) 原発被害の福島再生、公害の教訓に学ぶ」『朝日新聞デジタル』2016 年 7 月 29 日。

「公害専門家が語る復興のあり方」『政経東北』2016 年 12 月号。

「福島の商工業調査で賠償未請求の多さが浮き彫りに」『週刊東洋経済』2016 年 12 月 17 日号。

(新聞記事でのコメント等)

「除染完了に最大 5.1 兆円」(にっぽん再構築③)『産経新聞』2016 年 1 月 4 日付朝刊。

「【18 歳の 1 票】震災復興 被災地のこと 考えよう」『読売新聞』2016 年 1 月 23 日付朝刊。

「高浜 急いだ再稼働」『朝日新聞』2016 年 1 月 30 日付朝刊。

「原発避難者 移住 6900 件」『東京新聞』2016 年 1 月 31 日付朝刊。

「象徴される避難者」(復興の道標 ゆがみの構図⑤)『福島民友』2016 年 2 月 4 日付。

「原発事故前の想定人口より増!？」(こちら特報部)『東京新聞』2016 年 2 月 8 日付朝刊。

「仮置き延長なし崩し」(検証 中間貯蔵施設 下)『福島民友』2016 年 2 月 13 日付。

「自主避難で不眠・うつ 賠償判決」『朝日新聞』2016 年 2 月 19 日付朝刊。

「自主避難賠償命令 原告側弁護士 ADR より高額評価」『毎日新聞』2016 年 2 月 19 日付朝刊。

「自主避難で賠償命令」共同通信配信、『岩手日報』『埼玉新聞』『愛媛新聞』2016 年 2 月 19 日付。

- 「エネ庁 異例の基準策定」(原発は必要か 賠償の断面2)『新潟日報』2016年3月2日付。
- 「6割強で住宅無償打ち切り 九州への東北3県避難者」『西日本新聞』2016年3月11日付。
- 「原発事故5年 賠償求める動き続く」NHK「おはよう日本」2016年3月12日放送。
- 「自主避難 展望描けず」『神奈川新聞』2016年3月18日付。
- 「(核の神話:20) 福島から避難 ママたちの悲痛な叫び」『朝日新聞デジタル』2016年3月19日。
- 「東電、ツルハに2億円賠償命令」『北海道新聞』2016年3月19日付。
- 「双葉病院訴訟 東電に3100万円賠償命令」『福島民報』2016年4月28日付。
- 「『福島』規模の賠償困難」(原発は必要か 再稼働何のために7)『新潟日報』2016年4月29日付。
- 「水俣病確認60年 遠い解決」『毎日新聞』2016年5月2日付朝刊。
- 「29条/財産権」(憲法のいま 公布70年) 共同通信配信、『東奥日報』『岐阜新聞』『琉球新報』2016年7月15日付、『毎日新聞』高知県版、2016年7月16日付、『西日本新聞』2016年7月22日付夕刊、『山形新聞』2016年8月8日付、『中部経済新聞』2016年8月13日付、『信濃毎日新聞』2016年8月22日付、『神戸新聞』2016年10月25日付。
- 「チッソ子会社株売却の日安 計画達成は不要?」『熊本日日新聞』2016年7月20日付。
- 「東電福島事故対応費用 国に追加支援要請」『東京新聞』2016年8月2日付、『中国新聞』2016年8月4日付。
- 「患者失踪 東電に賠償命令 双葉病院訴訟」『福島民報』2016年8月11日付。
- 「双葉病院訴訟 患者失踪 東電に賠償命令 東京地裁2200万円支払い判決」『福島民友』2016年8月11日付。
- 「抜本的対策の費用 チッソ負担の議論 早急に」(地震と埋め立て地⑤)『熊本日日新聞』2016年8月29日付。
- 「廃炉ごみ管理 非現実的」『東京新聞』2016年9月7日付。
- 「東電農林業賠償素案 『事実上の打ち切り』懸念」『毎日新聞』福島県版、2016年9月22日付朝刊。
- 「『ふるさと喪失』は公害と共通」共同通信配信、『西日本新聞』2016年9月29日付夕刊、『京都新聞』2016年10月4日付、『東京新聞』2016年10月13日付。
- 「福島 介護職不足深刻に」『東京新聞』2016年10月12日付。
- 「福島第一処理費倍増21.5兆円」『東京新聞』2016年12月13日付、『中国新聞』2016年12月16日付。
- 「東電賠償費用 電気料金に上乘せ」テレビ朝日「グッド!モーニング」2016年12月13日放送。
- 「福島除染 国費300億円」『毎日新聞』2016年12月19日付朝刊。

「福島第1 九電利用者重い賠償負担」『西日本新聞』2016年12月25日付。

「患者認定絞り込み要求 チッソ元副社長メモ」『朝日新聞』西部本社版、2016年12月31日付朝刊。

(一般講演)

「営業損害の終期問題を考える」震災・原発事故5年シンポジウム「原発賠償の打ち切り問題と『人間の復興』に必要な支援を考える」(主催：福島県弁護士会・仙台弁護士会・岩手弁護士会、共催：日本弁護士連合会・東北弁護士会連合会)、いわきPIT、いわき市、2016年3月6日。(後掲記録誌あり)

「避難者の受けた被害と帰還政策」シンポジウム「フクシマ原発事故から5年 避難者の日々、被害の実相」(主催：横浜弁護士会)、横浜YWCAホール、横浜市、2016年3月10日。

「水俣病の経験から福島を考える」水俣病公式確認60年記念 特別講演会(主催：水俣フォーラム)、東京大学、文京区、2016年5月3日。

「公害から福島を考える」シンポジウム「原発事故から5年 追いつめられる被害者」(主催：福島の今を伝えるプロジェクト)、一橋大学、国立市、2016年5月28日。

「帰還、賠償収束政策と関西避難者の現状」「原発事故被害者の救済を求める全国運動」関西集会(同実行委員会主催)、阿倍野市民学習センター、大阪市、2016年7月9日。

「大気汚染公害の歴史と課題」(「四日市公害と環境未来館」エコパートナー講座、企画：四日市再生「公害市民塾」)、四日市公害と環境未来館、四日市市、2016年8月7日。

「水俣と福島——その責任と補償を考える」水俣病60年を問う集い(主催：水俣病60年実行委員会)、水俣市もやい館、水俣市、2016年10月26日。

「原発賠償と避難者支援——直面する課題はなにか」さようなら原発 米沢のつどい(第39回)、米沢市すこやかセンター、米沢市、2016年10月29日。

(報告書)

「放射能汚染をめぐる『分断』をいかに反転させるか——福島原発事故をめぐる地域での動き」藤川賢・尾崎寛直・堀畑まなみ・片岡直樹・土井妙子・除本理史『地域放射能汚染の解決過程に関する比較事例研究——広島・長崎、人形峠、東海村の教訓と福島原発事故』三井物産環境基金2012年度助成研究 研究成果報告書、2016年3月、111-120頁。

『震災・原発事故5年シンポジウム記録誌「原発賠償の打ち切り問題と『人間の復興』に必要な支援を考える』福島県弁護士会、2016年(基調報告1、6-40頁；パネルディスカッション記録、89-99頁)。